

## [平成20年度普及に移す技術]

[技術名] 茶豆および黒大豆エダマメの無加温ハウス半促成栽培による5月下旬～6月上旬出荷

[要約] 無加温ハウス半促成栽培において、茶豆「庄内1号」と黒大豆「たんくろう」を3月中旬には種、下旬に定植することで、5月下旬～6月上旬出荷が可能である。

[キーワード] エダマメ、食味、品種、無加温ハウス栽培

[担当] 福井農試・園芸・バイテク部・野菜研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100、電子メール c-ikari-rj@pref.fukui.lg.jp

---

### [背景・ねらい]

エダマメは栄養価の高さが評価され、子供に人気のある野菜であることから安定した需要がある。収穫後間もないエダマメの食味は際立って優れ、直売所などでは人気の野菜として出荷期間の延長が望まれている。また、エダマメ栽培に取り組む生産組織などにとっても、出荷期間の延長は労力分散や販売戦略上重要である。しかし、通常の露地直まき栽培のは種適期は4月下旬以降となり、7月以前への収穫前進は望めない。そこで、パイプハウスを利用した無加温半促成栽培による5月下旬～6月上旬出荷の作型を検討する。

### [技術の内容・特徴]

1. 茶豆「庄内1号」は3月中旬には種し、下旬に定植すると、露地直まき以上の可販収量を6月上旬に得ることが可能である(図、表)。また、3粒莢率も高くなる(表)。3月上旬は種では年次間差があり安定した収量が得られない。
2. 黒大豆「たんくろう」は3月中旬には種し、下旬に定植すると、露地直まき並みの可販収量を5月下旬に得ることが可能である(図、表)。しかし、3粒莢率はやや低くなる(表)。
3. 黒大豆「快豆黒頭巾」は3月上旬は種でも、著しく収量が低下し、無加温ハウス半促成栽培には適さない(図、表)。
4. 2月下旬までは種日を前進しても、収穫日はほとんど変わらない。また、開花時の低温などにより収量はほとんど得られない(図、表)。

### [技術の活用面・留意点]

1. 露地直まき栽培で、良食味な有望品種として選定した3品種を供試した(H19 参考となる技術参照)。
2. 本試験は間口6m×17mのパイプハウスで実施。5月上旬頃までハウス内トンネル被覆。育苗には温床を用い、約10日間育苗。
3. 開花期前後に低温(10～15℃)にあうと結莢率や収量が低下するので、トンネル被覆の除去時期に気をつける。
4. 2ヵ年を通して防除はほとんど必要なかった。

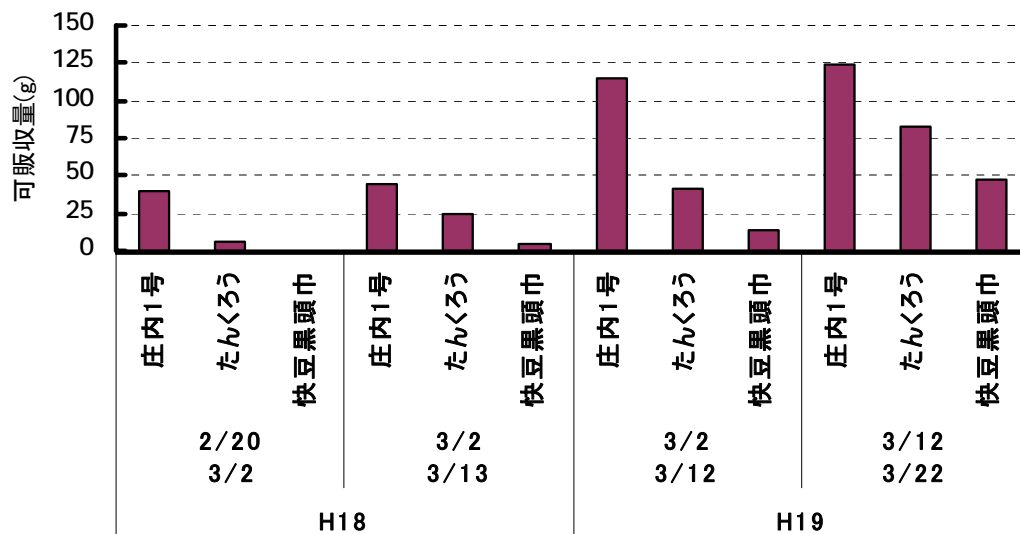
### [普及計画]

普及目標：30a

普及対象：エダマメ栽培に取り組む生産者および生産組織

普及に向けた対応：成果発表会等での情報提供、栽培マニュアルの作成、実証圃での指導支援、フィールドレポート・HPへの掲載

[具体的データ]



品種および年度別は種・定植日

図 は種・定植日別可販収量

表 品種別収量

実施年	は種日 定植日	品種	総収量 g/株	可販収量 <sup>1)</sup> g/株	粒数構成比(W/W・%)				規格外 g/株	収穫日	は種後 日数
					3粒	2粒	1粒	めがね <sup>2)</sup>			
H18年	2/20 3/2	庄内1号	83.6	39.8	25.9	46.0	28.1	0.0	43.8	6/9	109
		たんくろう	8.0	6.6	6.6	47.4	46.0	0.0	1.5	5/31	100
		快豆黒頭巾	0.3	0.2	0.0	77.6	22.4	0.0	0.1	5/31	100
	3/2 3/13	庄内1号	61.0	44.7	29.1	48.2	21.9	0.7	16.3	6/2	92
		たんくろう	27.5	23.8	17.0	50.1	33.0	0.0	3.7	6/1	91
		快豆黒頭巾	10.3	5.2	3.5	35.9	60.6	0.0	5.1	6/2	92
H19年	3/2 3/12	庄内1号	125.1	114.6	27.5	52.7	10.6	0.3	10.5	6/6	96
		たんくろう	45.7	41.2	12.4	59.0	18.5	0.3	4.5	5/28	87
		快豆黒頭巾	20.1	13.6	0.7	30.1	36.6	0.0	6.6	5/30	89
	3/12 3/22	庄内1号	136.9	124.0	27.2	53.6	9.0	0.4	13.0	6/8	88
		たんくろう	86.9	82.0	25.7	55.9	12.2	0.3	4.9	5/30	79
		快豆黒頭巾	54.8	47.4	10.3	46.8	29.3	0.1	7.4	5/30	79

1)総収量から虫害等規格外を除いたもの。

2)3粒中の中央が不完全粒である莢。

補足：露地直まき栽培における品種別収量(H17、H18 平均)

品種	総収量 g/株	可販収量 g/株	粒数構成比(W/W・%)				規格外 g/株	は種後 日数
			3・4粒	2粒	1粒	めがね		
庄内1号	129.2	79.0	20.3	66.5	12.1	1.0	50.2	78
たんくろう	117.2	77.9	54.9	38.4	4.0	2.8	39.3	71
快豆黒頭巾	125.5	72.2	28.6	57.1	13.2	1.2	53.3	69

H17年度は5月27日、H18年度は5月17日には種。

[その他]

研究課題名：新規園芸産地形成事業

研究期間：2005～2007年度

研究担当者：五十里千尋、佐藤信仁、村田英一郎